

世界経済の潮流と日本経済の行方

大和総研チーフエコノミスト
熊谷亮丸

- * 今注目すべき7つのポイント
- * トランプ政権は年後半以降、悪材料に焦点
- * 歴代大統領中では、現実主義でタカ派タイプ
- * いずれドル安政策に舵を切る
- * 中国は短期楽観、中長期悲観
- * 日本も世界も景気は回復傾向に
- * アペノミクスに残された課題
- * 労働市場改革こそ宝の山
- * 今後の資本主義は労働者重視へ
- * グレートロテーションは続くのか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は大和総研の熊谷さんに来ていただきました

と思います。ここしばらく政治の問題、外交の問題等々非常に多かったので、経済の問題についてはデータをもとにした綿密な分析というのはしばらくあいておりました。今日は現実の認識を改めてしていただく、それから将来に向けて世界と日本がどうなるかについて、現在第一線で分析をされている熊谷さんをお願いしたいということですが、先ほど伺いましたら常務になられたそうでございます。

熊谷 それでは熊谷さんよろしくお願いたします。（拍手）
ただいまご紹介にあずかりました大和

総研の熊谷でございます。本日は伝統ある会合にお招きいただき、心より御礼申し上げます。

今注目すべき7つのポイント

今日は大きく7個の柱でお話しさせていただきます。まず1点目としては、トランプ政権をどう捉えるかということですが、結論としては、当面については非常に楽観的な見方がまだ続いていく。株高、円安ということですが、他方、年末、そして来年にかけて言えば、徐々にトランプ氏に関する悲観的な見方、やはり実際はそうとう問題があるなどということが判明してくる中で、日本のマーケットについても円高、株安方向に動いてくる可能性があるのではないかと。これを1点目として申し上げます。